人口動態統計等から見る岩手中部圏域の状況

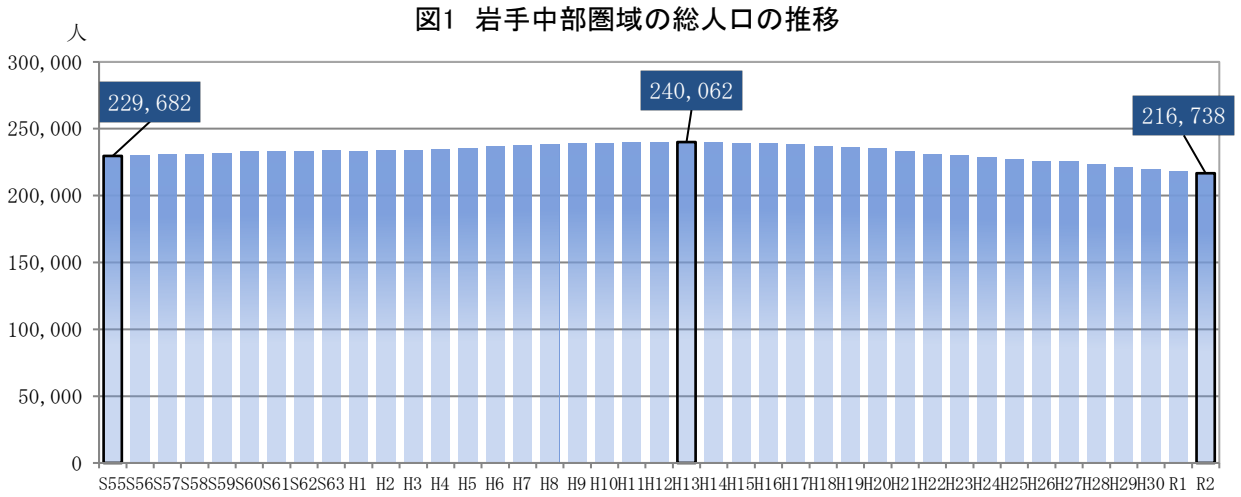
※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

Ⅰ　人口の推移

１　総人口の推移

岩手中部圏域の人口は、昭和55年（229,682人）から平成13年（240,062人）まで毎年増加していましたが、平成14年から減少に転じ、平成19年以降は毎年千人ずつ減少しています。令和２年には216,738人と、平成13年からおよそ２万人減少しました（図1）。

図1　岩手中部圏域の総人口の推移

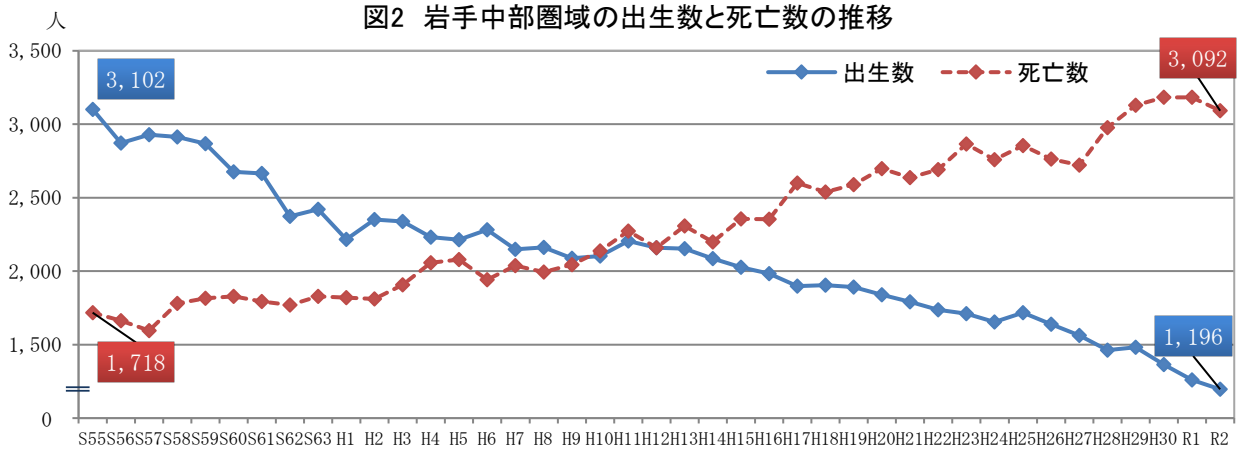


２　人口構成の推移

岩手中部圏域の1年当たりの出生数は、昭和55年には3,102人でしたが、令和２年は1,196人と1,906人減少しました。一方、死亡数は、昭和55年の1,718人から、令和２年は3,092人と増加しています（図2）。

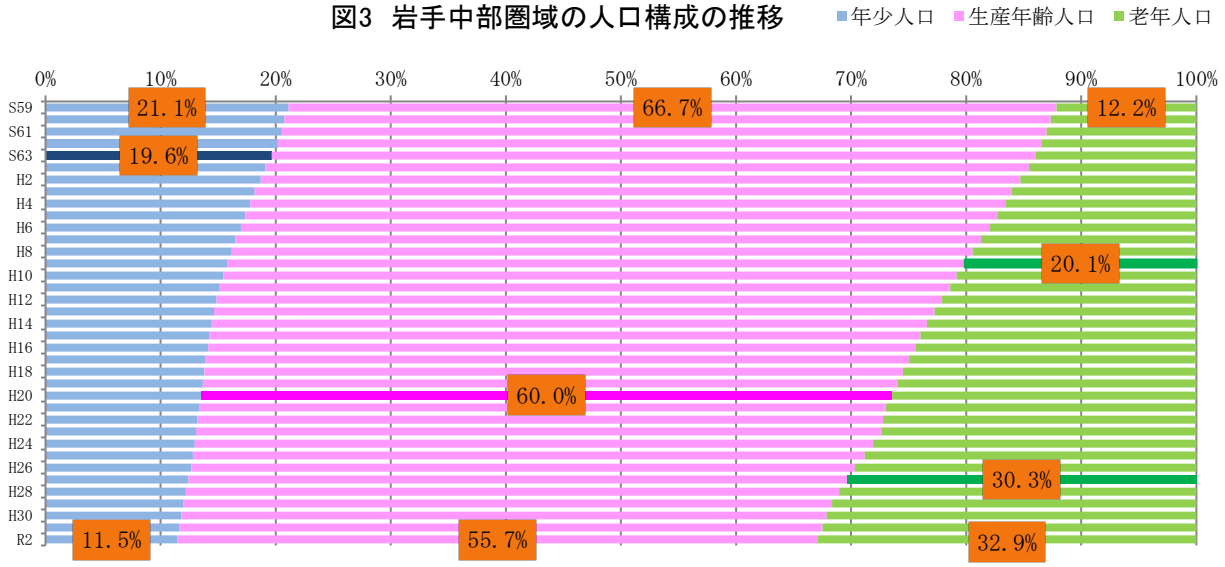
出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成10年に初めてマイナスに転じ、以降はマイナスで推移しています。令和２年の自然増加数は1,896人減でした。

図2　岩手中部圏域の出生数と死亡数の推移



中部圏域の総人口に占める各区分の割合を昭和59年から経年的に見たものが「図3」です。
年少人口は昭和63年に19.6%となり、令和２年は11.5%まで低下しています。
老年人口は平成27年に30.3%となり、令和２年は32.9%とおよそ3人に1人が65歳以上という状況です。

図3　岩手中部圏域の人口構成の推移



３　世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

岩手中部圏域の世帯数は、昭和55年の61,619世帯から増加傾向にあり、令和２年には85,250世帯と、約40年で23,631世帯増加しています（図4）。

総人口を世帯数で割った世帯あたりの世帯員数は、昭和59年の3.61人から令和２年は2.54人と減少していますが、岩手県全体の世帯人員を上回って推移しています（図5）。

なお、世帯数は、国勢調査年は国勢調査の数値、それ以外は住民基本台帳の数値となっています。

図4　岩手中部圏域の世帯数の推移

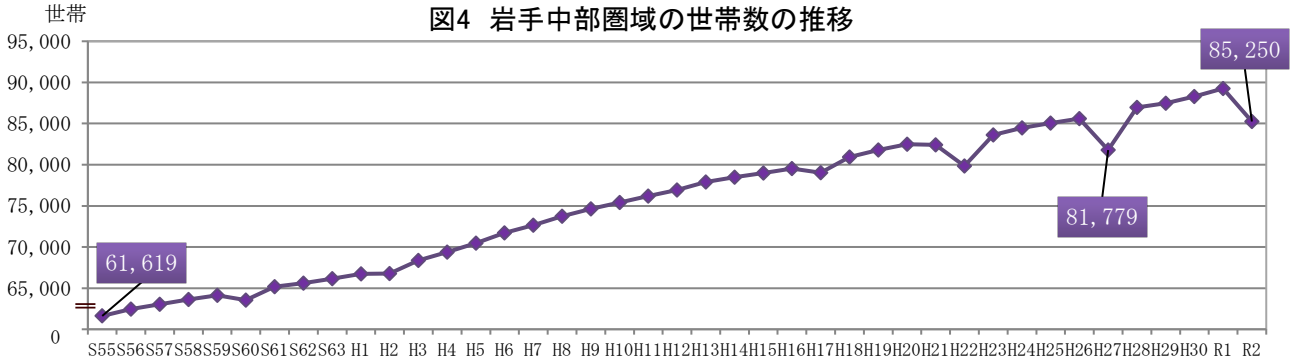
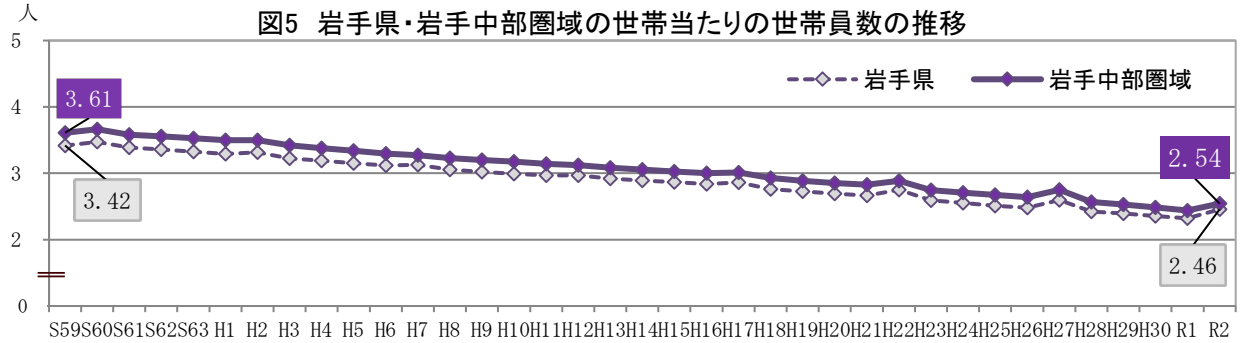


図5　岩手県・岩手中部圏域の世帯当たりの世帯員数の推移



Ⅱ　婚姻及び離婚の推移

１　婚姻数及び婚姻率の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、岩手中部圏域の婚姻数は、昭和55年の1,361組から平成12年に1,415組と最も多くなり、その後減少傾向となっています。令和２年は730組でした（図6）。
人口千人当たりの婚姻率は、岩手県全体とほぼ同様の傾向で推移しています（図7）。

図6　岩手中部圏域の婚姻数の推移

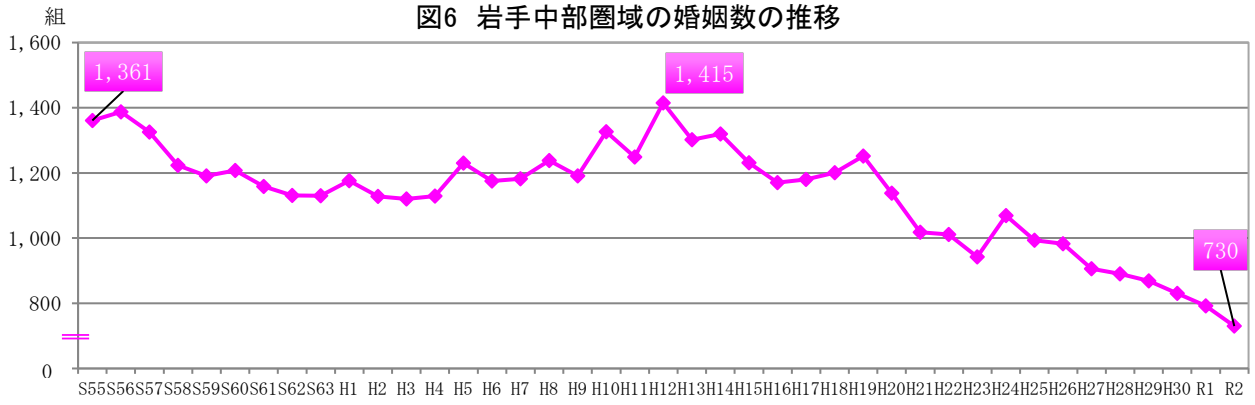
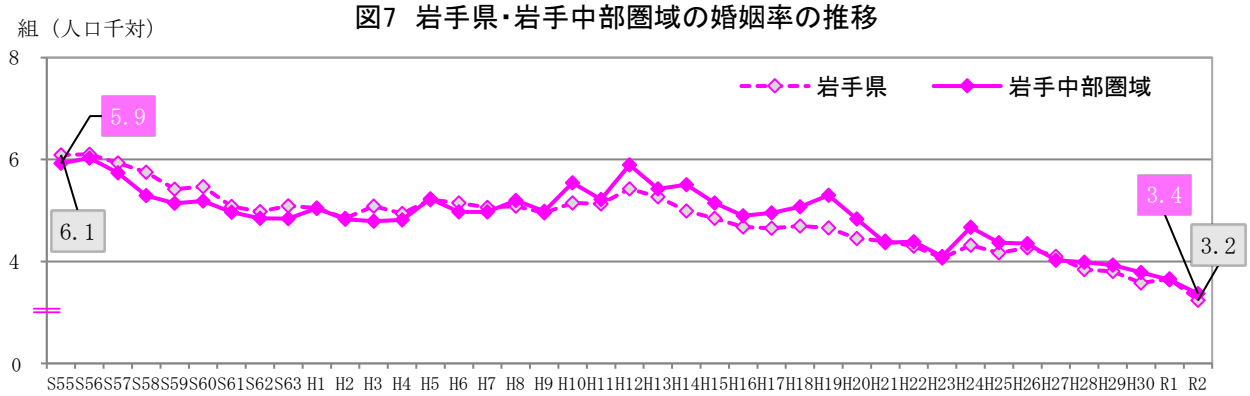


図7　岩手県・岩手中部圏域の婚姻率の推移



２　婚姻率の圏域別順位（令和２年高率順）

	岩手県	1位	2位	3位		5位	6位		8位	9位
圏域名		盛岡	中部	胆江	釜石	宮古	両磐	気仙	久慈	二戸
婚姻率	3.2	3.7	3.4	3.1	3.1	2.9	2.8	2.8	2.3	1.9

３　離婚数及び離婚率の推移

岩手中部圏域の離婚数は、昭和55年の223組から上昇傾向となり、平成17年の512組が近年のピークとなっています。その後徐々に減少し、令和２年は308組でした（図8）。
人口千人当たりの離婚率は、概ね岩手県全体より高く推移しています（図9）。

図8　岩手中部圏域の離婚数の推移

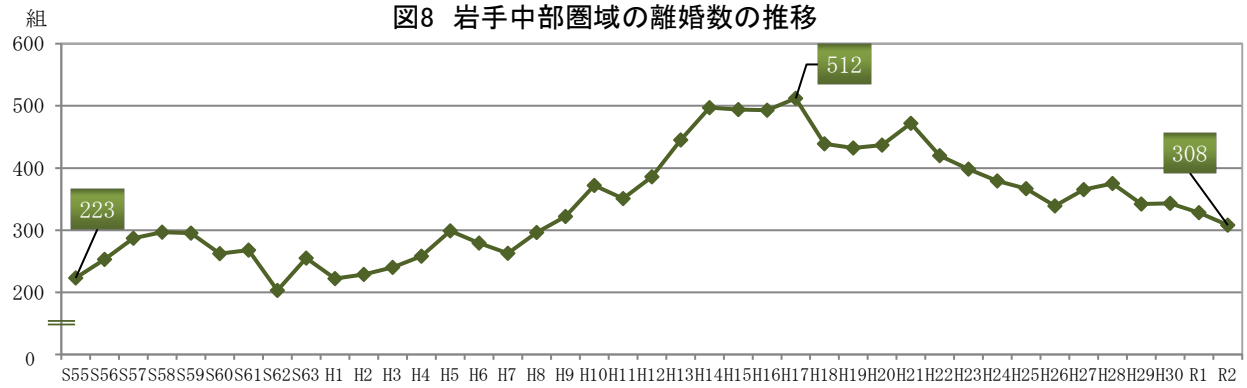
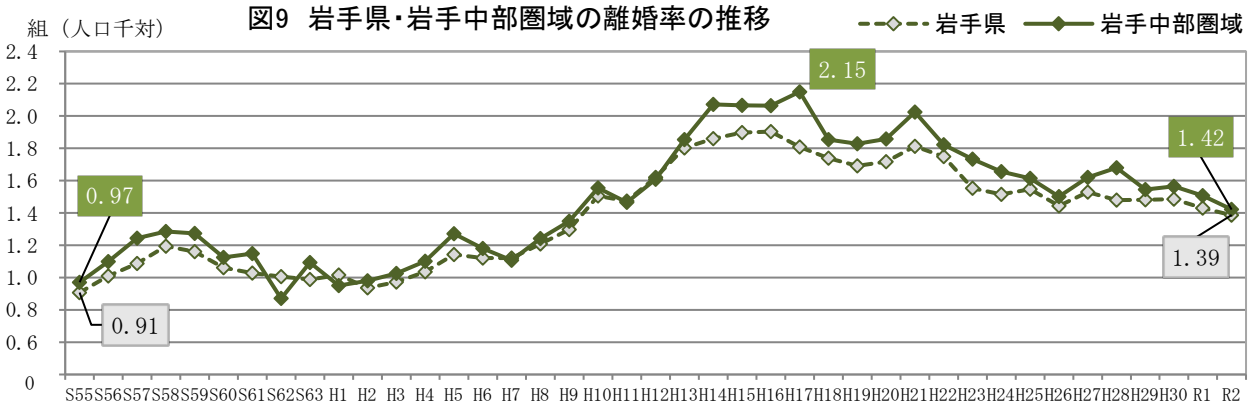


図9　岩手県・岩手中部圏域の離婚率の推移



４　離婚率の圏域別順位（令和２年低率順）

	岩手県	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
圏域名		釜石	久慈	二戸	気仙	両磐	盛岡	中部	宮古	胆江
離婚率	1.39	1.07	1.12	1.20	1.24	1.33	1.39	1.42	1.60	1.61

Ⅲ　出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

１　出生数及び出生率の推移

岩手中部圏域の出生数は、昭和55年の3,102人から減少傾向にあり、令和２年には1,196人となりました（図10）。
人口千人当たりの出生率も、昭和55年の13.5から令和２年は5.5と低下しており、岩手県全体とほぼ同じ傾向で推移しています（図11）。

図10　岩手中部圏域の出生数の推移

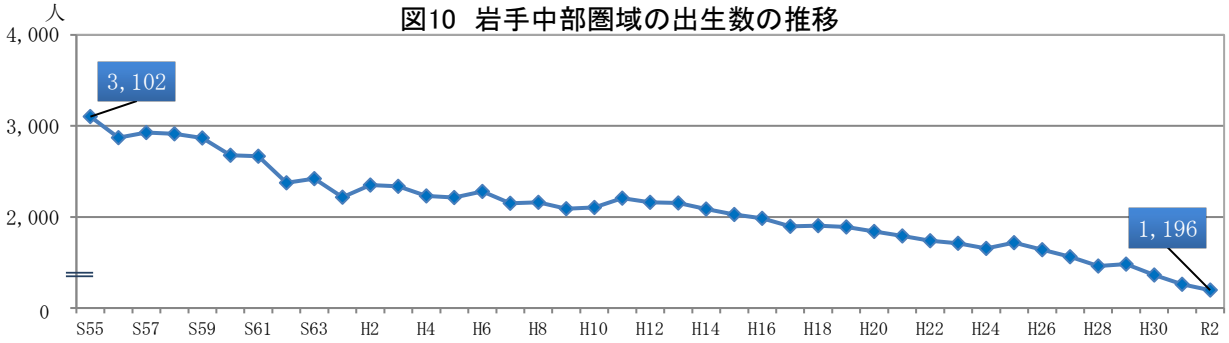
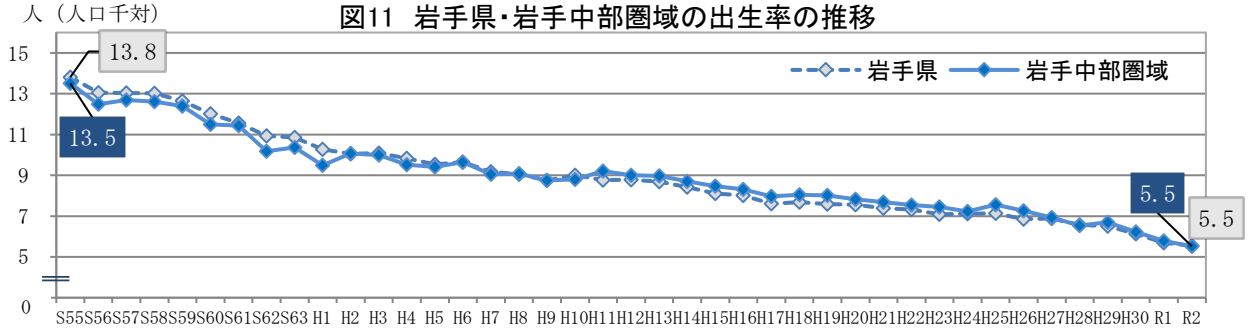


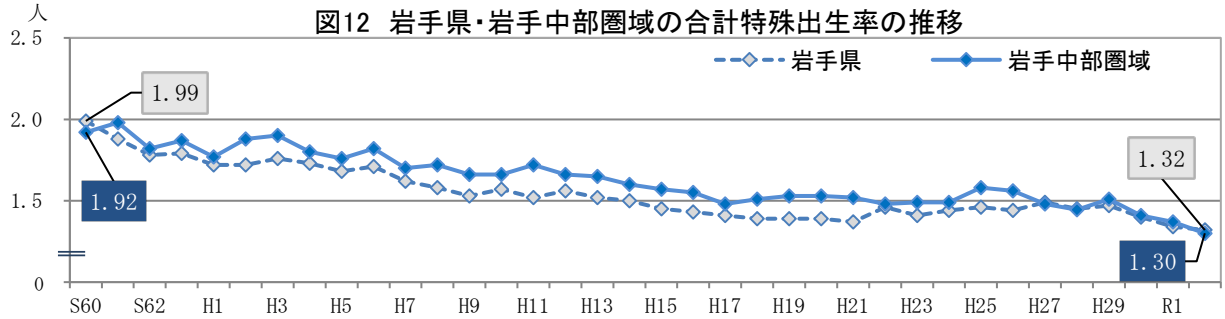
図11　岩手県・岩手中部圏域の出生率の推移



２　合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標として合計特殊出生率があります。岩手中部圏域については昭和60年から平成17年にかけて低下し、多少の増減はありながら、平成18年以降は横ばいで推移し、令和２年は1.30でした。岩手県全体より高い年次が多いのですが、令和２年は岩手県全体を下回っています（図12）。

図12　岩手県・岩手中部圏域の合計特殊出生率の推移



３　合計特殊出生率の圏域別順位（令和２年高率順）

	岩手県	1位		3位	4位	5位	6位		8位	9位
圏域名		胆江	宮古	気仙	久慈	両磐	盛岡	中部	二戸	釜石
合計特殊出生率	1.32	1.44	1.44	1.36	1.35	1.34	1.30	1.30	1.19	1.17

４　周産期死亡数・率の推移

妊娠満22週以降の死産（以下、「後期死産」と言います。）及び出生後満7日未満の死亡（以下、「早期新生児死亡」と言います。）を周産期死亡と言います。周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率です。

岩手中部圏域の周産期死亡数は、昭和57年の20人から大きく増減しながらも減少傾向にあり、令和２年は5人でした（図13）。内訳として、後期死産が多くを占めている状況となっています。

周産期死亡率は昭和57年の6.8から大きく上昇と低下を繰り返し、令和２年は4.2でした。なお、平成21年以降は岩手県全体より高い傾向が見て取れます（平成26、30年を除く）（図14・15）。

図13　岩手中部圏域の周産期死亡数の推移

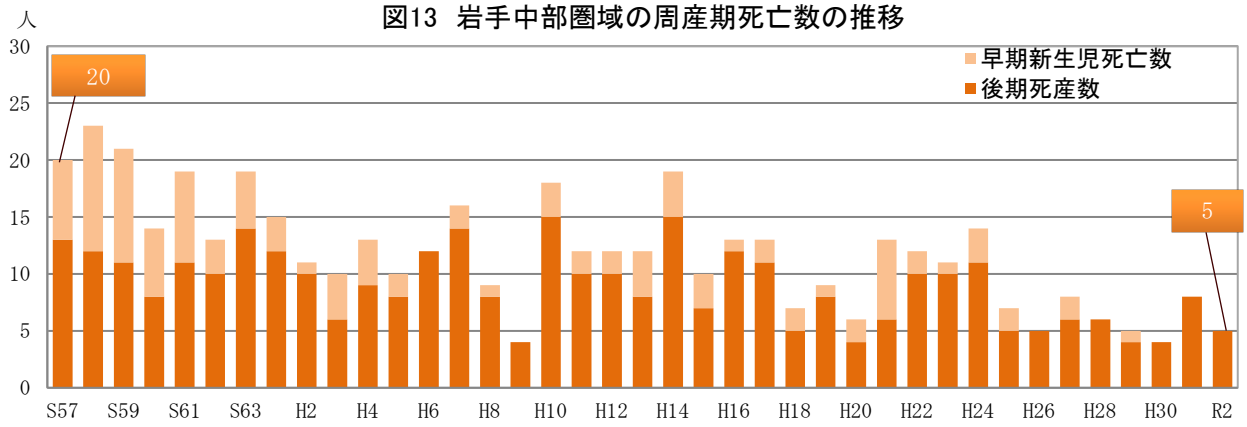


図14　岩手中部圏域の周産期死亡率の推移

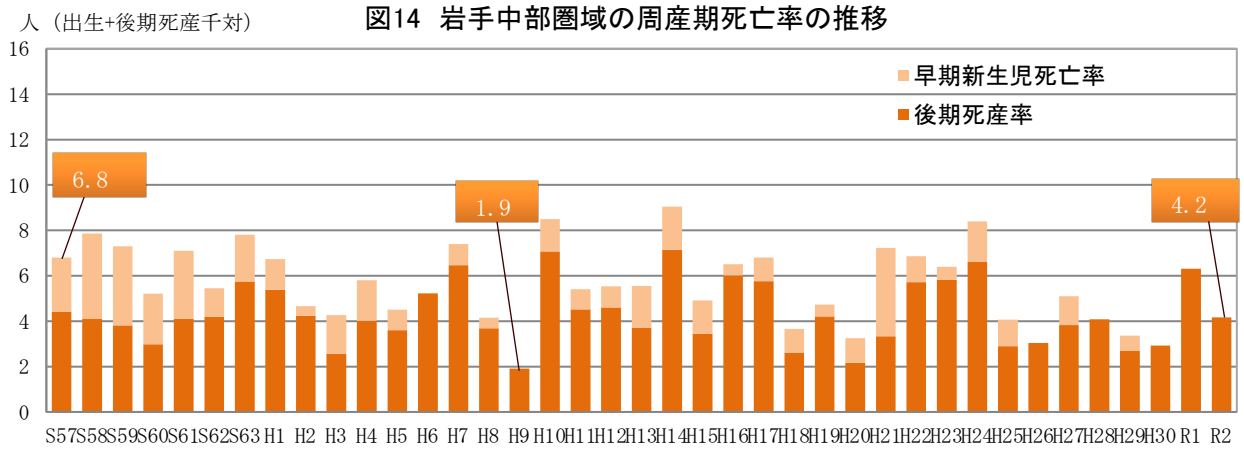
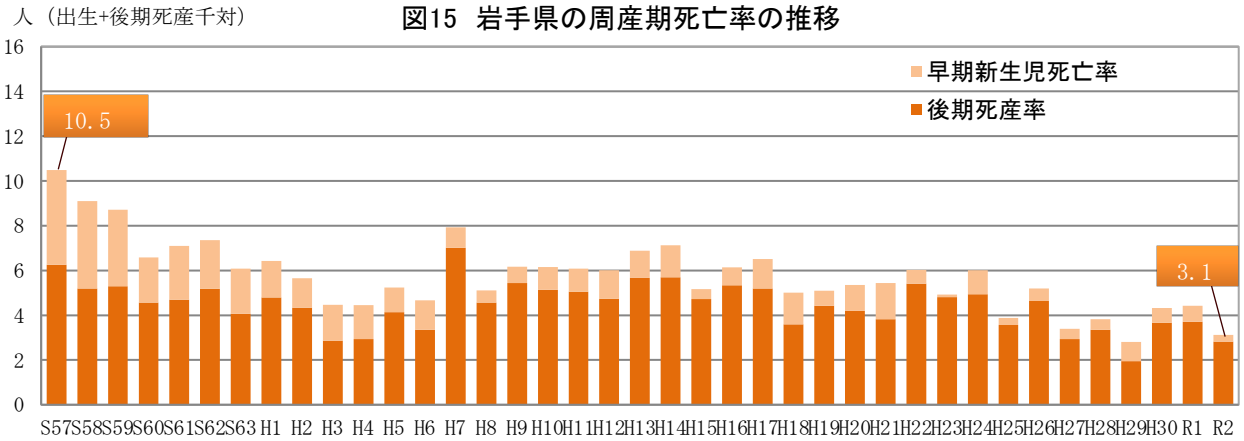


図15　岩手県の周産期死亡率の推移



５　死産数・率の推移

岩手中部圏域の死産数は、増減しながらも全体は減少傾向にあり、令和２年は27人でした。平成17年以降は70人以下で推移しています（図16）。

出産千人当たりの死産率は、昭和55年の53.7から昭和62年には70.1と高くなりましたが、以後多少の増減はありながら低下傾向となり、令和２年は22.1と岩手県全体より高く推移しています。内訳として、人工死産率が全体の3分の2を占めていますが、平成24年以降から自然死産率の方が高く推移している年次が多くなっています（図17、図18）。

図16　岩手中部圏域の死産数の推移

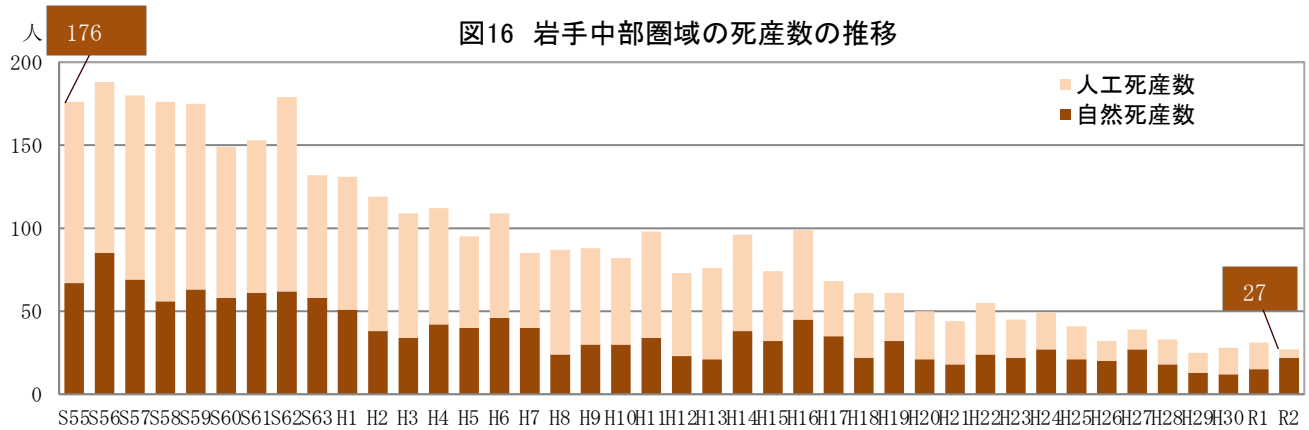


図17　岩手中部圏域の死産率の推移

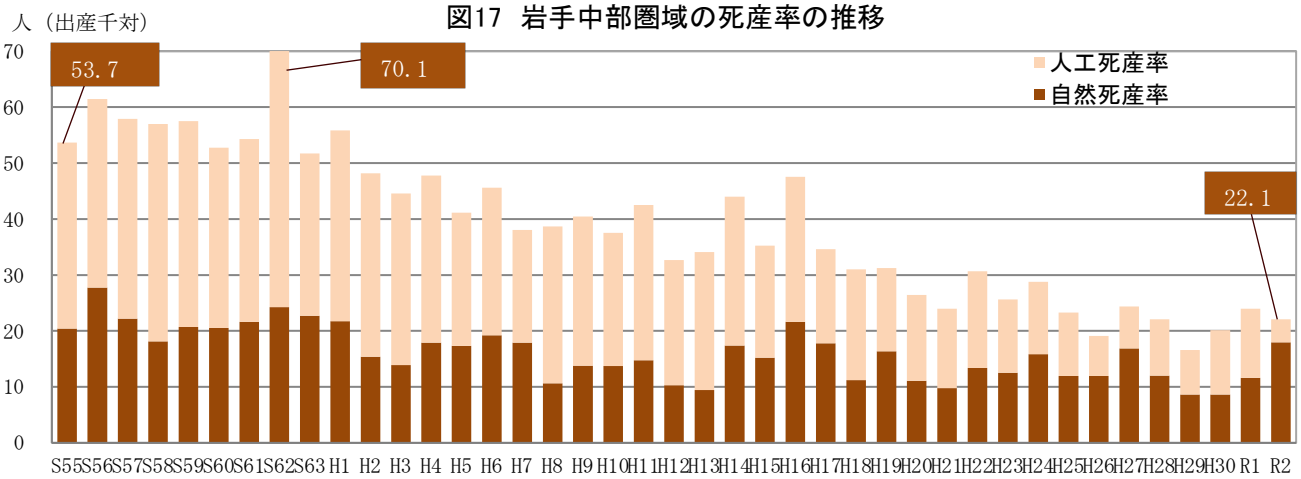
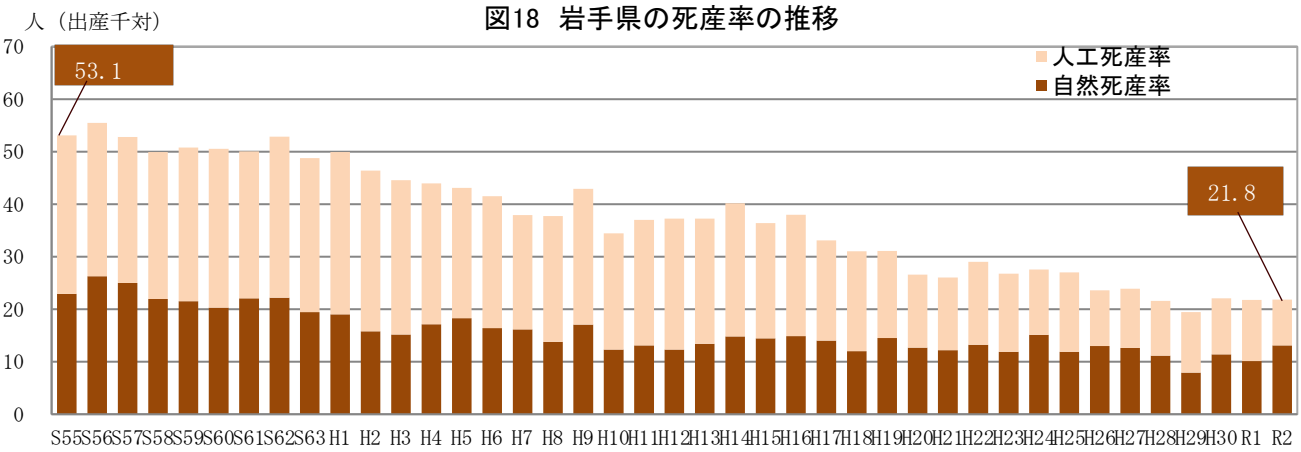


図18　岩手県の死産率の推移



６　乳児死亡数・率の推移

岩手中部圏域の乳児死亡数は、昭和55年の24人から平成2年まで増減を繰り返しながら減少しています。平成3年以降は10人を超える年もありますが5人前後で増減を繰り返し、令和２年は２人となっています。 乳児死亡数のうち、生後4週間未満（新生児）の死亡は昭和55年の21人から平成２年の１人まで減少し、平成3年以降は横ばいとなっていました。平成14年からは増減を繰り返し、令和２年は１人でした。（図19）。

出生千人当たりの乳児死亡率は、近年は岩手県全体より大きな幅で上昇と低下を繰り返しています。令和２年は1.7でした（図20）。

図19　岩手中部圏域の乳児死亡数の推移

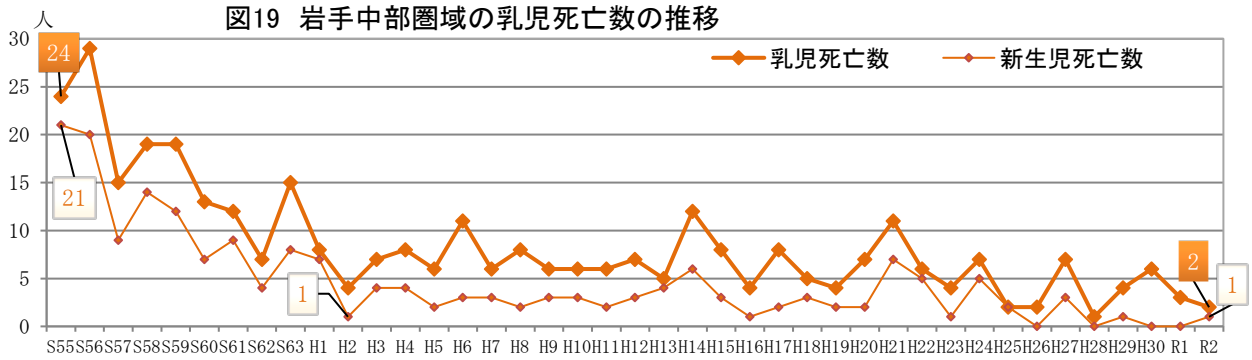
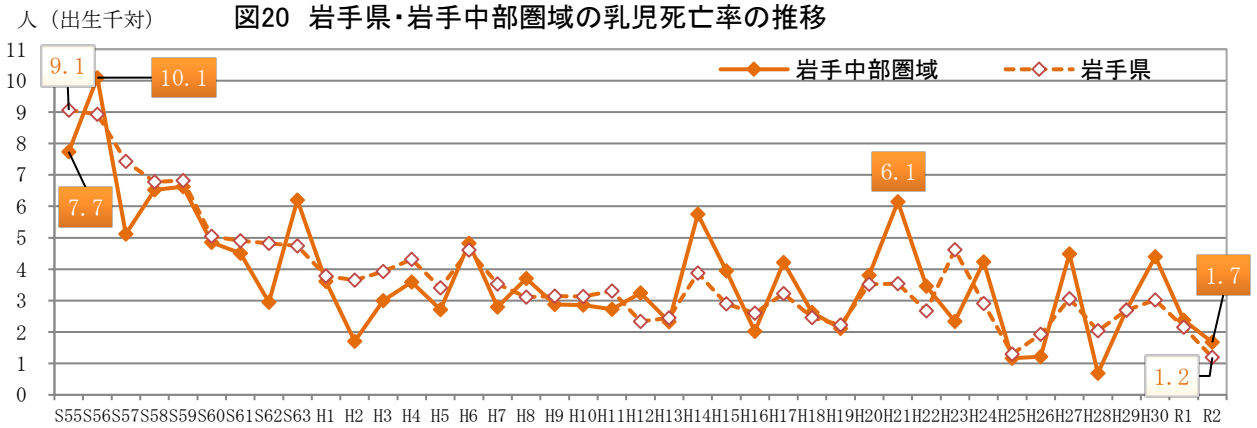


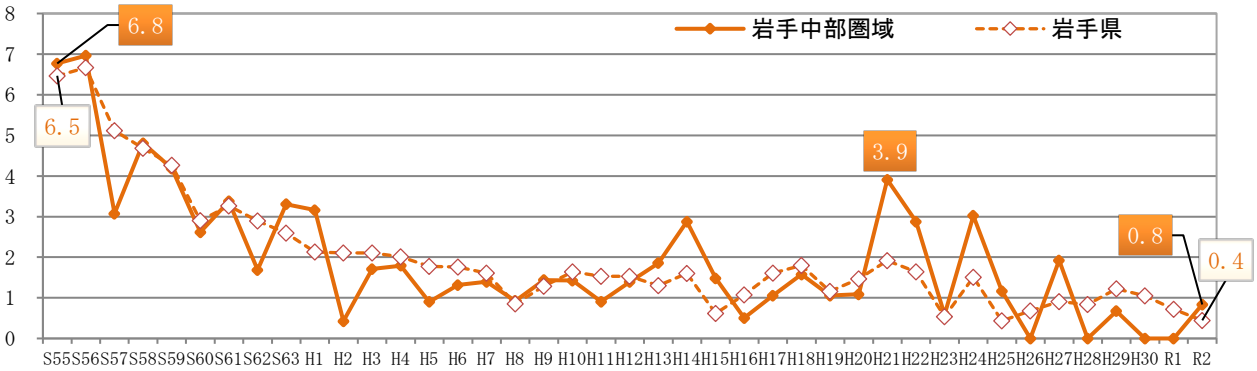
図20　岩手県・岩手中部圏域の乳児死亡率の推移



７　新生児死亡率の推移

出生千人当たりの新生児死亡率は、昭和55年から大きな幅で上昇と低下を繰り返しながら推移しています（図21）。岩手県全体と比較すると、平成21年以降中部圏域の死亡率が高い年が多く見られます。

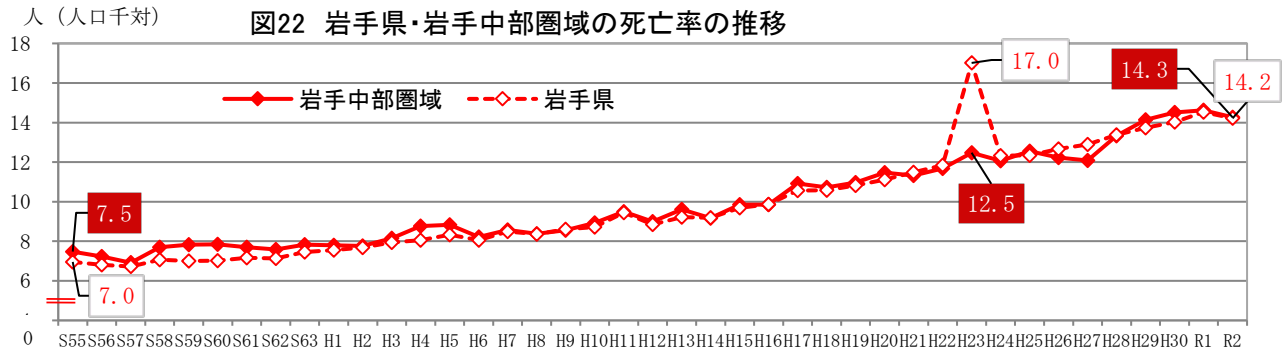
図21　岩手県・岩手中部圏域の新生児死亡率の推移



Ⅳ　死亡の推移

1　死亡率の推移

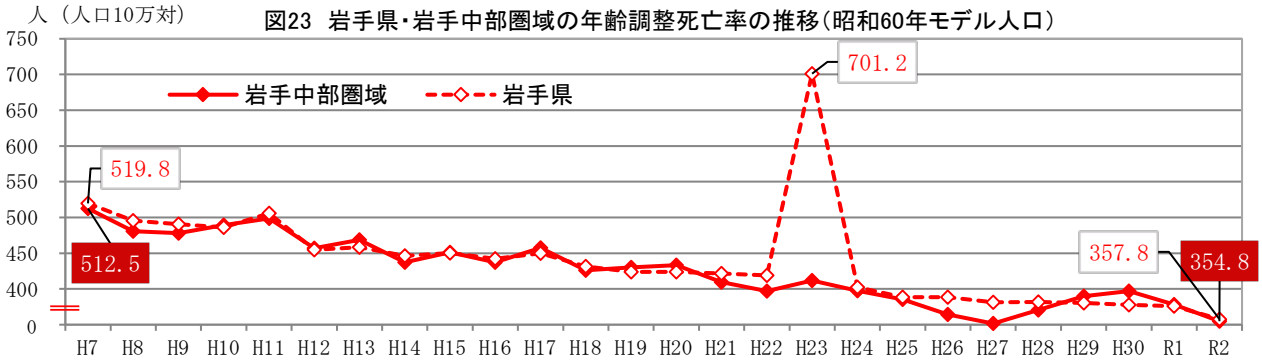
岩手中部圏域の死亡数が増加していることは前述のとおりです（図2）が、人口千人当たりの死亡率も、昭和55年の7.5から令和2年には14.3と上昇しました。岩手中部圏域は、岩手県全体とほぼ同じ傾向で推移しています（図22）。
なお、岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。

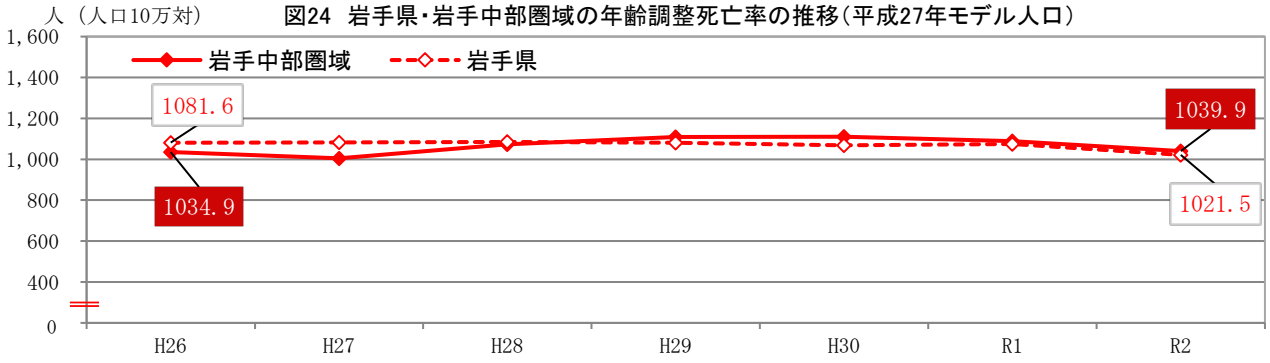


2　年齢調整死亡率の推移

（図23）の人口10万人当たりの年齢調整死亡率※で見ると、岩手中部圏域は平成7年の512.5から徐々に低下しています。令和2年は前年より下降し354.8となりました。岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。
なお、（図23）（図24）を見ると、岩手中部圏域は岩手県全体とほぼ同じ傾向で推移しています。

※年齢調整死亡率：年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率（人口10万人当たり）です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口（国勢調査人口を基に補正した人口）を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。
なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間（平成26年～令和5年）分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。
岩手県の年齢調整死亡率は不詳人口を按分して算出、岩手中部圏域は不詳人口を除いて算出しています。



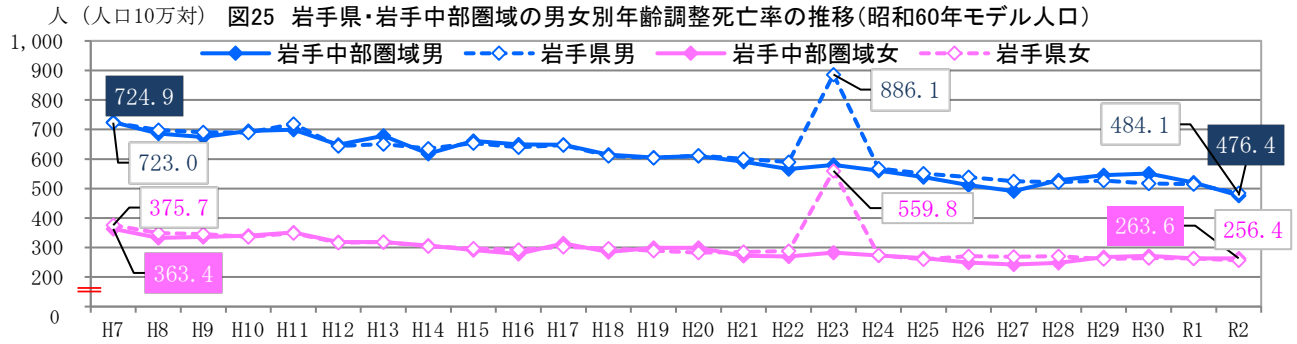


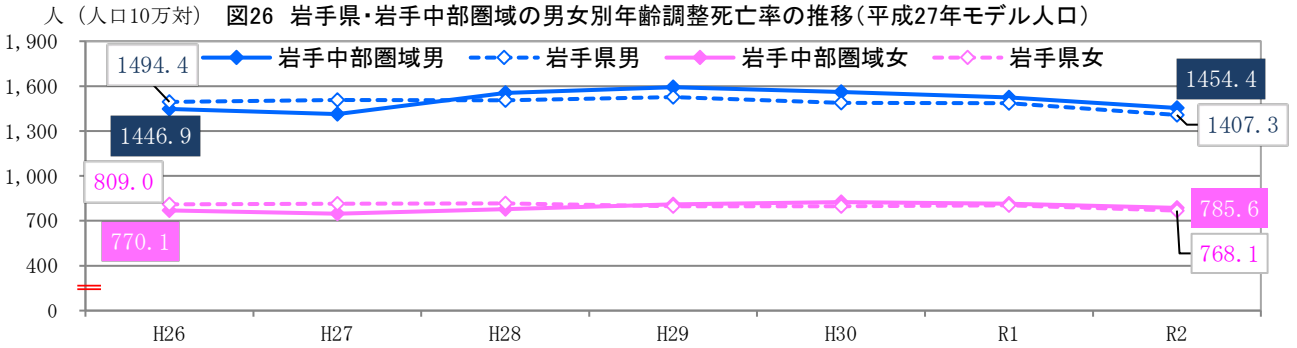
３　男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で（図25）（図26）に示します。

（図25）を見ると、岩手中部圏域の男性は、平成７年の724.9から令和２年は476.4にまで低下しています。女性は、平成７年の363.4から令和２年は263.6にまで低下して推移していることがわかります。

なお、（図25）（図26）を見ると、岩手中部圏域は年ごとの変動はあるものの、岩手県全体とほぼ同程度で推移しています。男性は女性の約2倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。





４　年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、岩手県・岩手中部圏域の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを下表に示しています。

区分（昭和60年モデル人口）				第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和２年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
			年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1
		岩手中部圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	肺炎
			年齢調整死亡率	156.5	67.0	48.9	20.4	18.1
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺
			年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3
		岩手中部圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺
			年齢調整死亡率	95.0	32.7	26.5	21.4	9.9

区分（平成27年モデル人口）				第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和２年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8
		岩手中部圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	肺炎
			年齢調整死亡率	424.2	217.4	152.2	86.6	69.1
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6
		岩手中部圏域	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			年齢調整死亡率	214.1	118.0	107.2	91.3	23.1

＜参考＞令和２年死因別死亡数順位

岩手県・岩手中部圏域の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と岩手中部圏域で比較すると、男性は第１位「悪性新生物」から第３位「脳血管疾患」まで同じ順位となっており、第4位は岩手県は「肺炎」で岩手中部圏域は「老衰」、第5位は岩手県は「老衰」で岩手中部圏域は「肺炎」となっています。女性は第1位「悪性新生物」は同じ順位となっていますが、第2位は岩手県は「心疾患」で岩手中部圏域は「老衰」、第３位は岩手県は「老衰」で岩手中部圏域は「心疾患」、第4「脳血管疾患」から第5位「肺炎」まで同じ順位となっています。

区分				第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和２年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			死亡数	2,562	1,254	889	487	428
		岩手中部圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	肺炎
			死亡数	453	219	158	81	68
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381
		岩手中部圏域	死因	悪性新生物	老衰	心疾患	脳血管疾患	肺炎
			死亡数	346	283	255	195	50

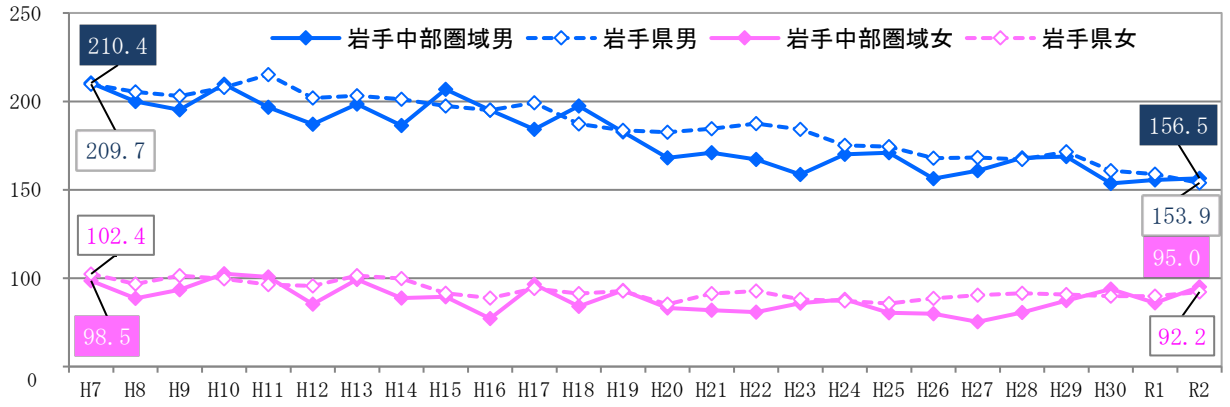
５　悪性新生物の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図27）（図28）に示します。

（図27）を見ると、岩手中部圏域では、男性は平成7年から平成23年まで低下傾向にありましたが、平成24年、25年は上昇しています。平成7年から19年まで岩手県全体に近い死亡率で推移していましたが、平成20年以降は岩手県全体より低く推移している年が多くなっています。令和2年は156.5と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年以降ほぼ横ばい傾向にあり、ほとんどの年で岩手県全体より低く推移しています。令和2年は95.0と岩手県全体より高く推移しています。

（図28）を見ると、岩手中部圏域は年ごとの変動はあるものの、男女ともに概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。

人（人口10万対）　図27　悪性新生物の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（昭和60年モデル人口）



人（人口10万対）　図28　悪性新生物の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（平成27年モデル人口）

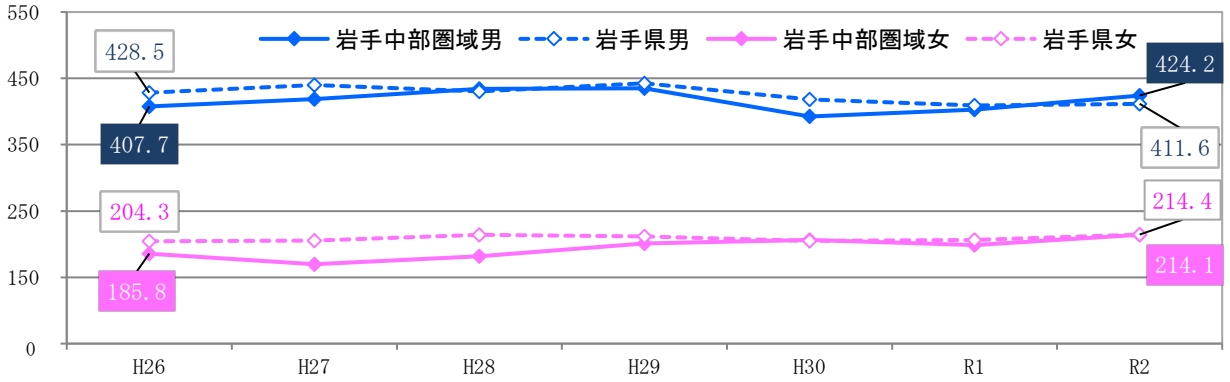


表1　悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の岩手県・岩手中部圏域の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

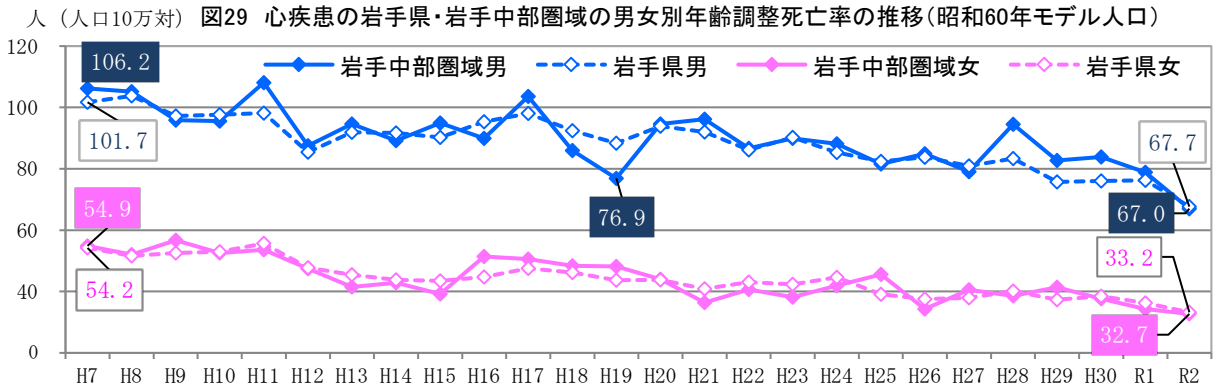
	区分（昭和60年モデル人口）			第1位	第2位	第3位
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸	胃
			年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6
		岩手中部圏域	死因	肺	胃	大腸
			年齢調整死亡率	37.0	27.0	19.1
	女性	岩手県	死因	大腸	乳	肺
			年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4
		岩手中部圏域	死因	乳	肺	大腸
			年齢調整死亡率	13.1	10.5	9.4
	区分（平成27年モデル人口）			第1位	第2位	第3位
	男性	岩手県	死因	肺	大腸	胃
			年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2
		岩手中部圏域	死因	肺	胃	大腸
			年齢調整死亡率	102.0	67.5	56.7
	女性	岩手県	死因	大腸	肺	乳
			年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1
		岩手中部圏域	死因	肺	大腸	乳
			年齢調整死亡率	27.1	26.9	22.2

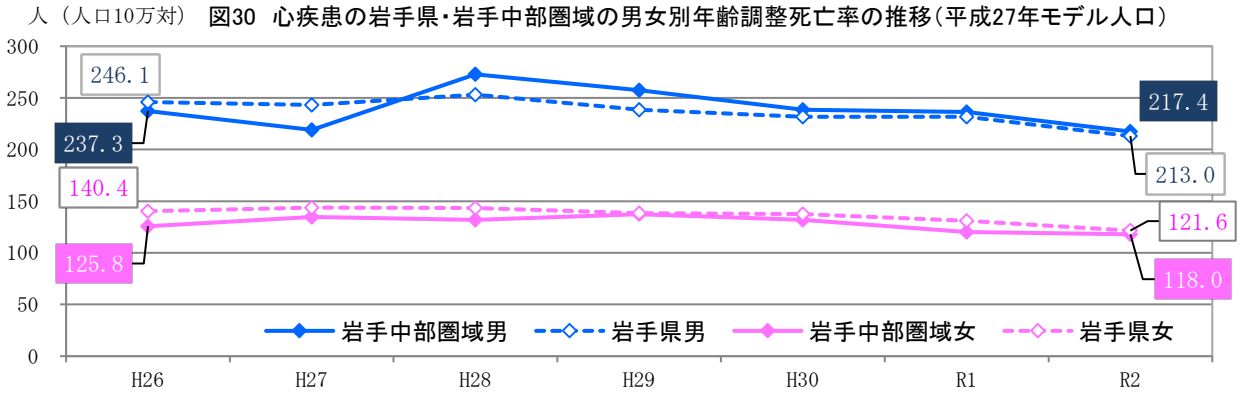
６　心疾患の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、岩手県全体・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図29）（図30）に示します。

（図29）を見ると、岩手中部圏域では、男性は平成7年の106.2人から緩やかな低下傾向にあり、平成19年に76.9人と平成7年以降最も低くなりましたが、その後増減を繰り返し推移しています。令和2年は67.0と岩手県全体より低く推移しています。女性は、平成7年の54.9人から上昇と低下を繰り返しながら、概ね低下傾向にあり、令和2年は32.7と岩手県全体より低く推移しています。

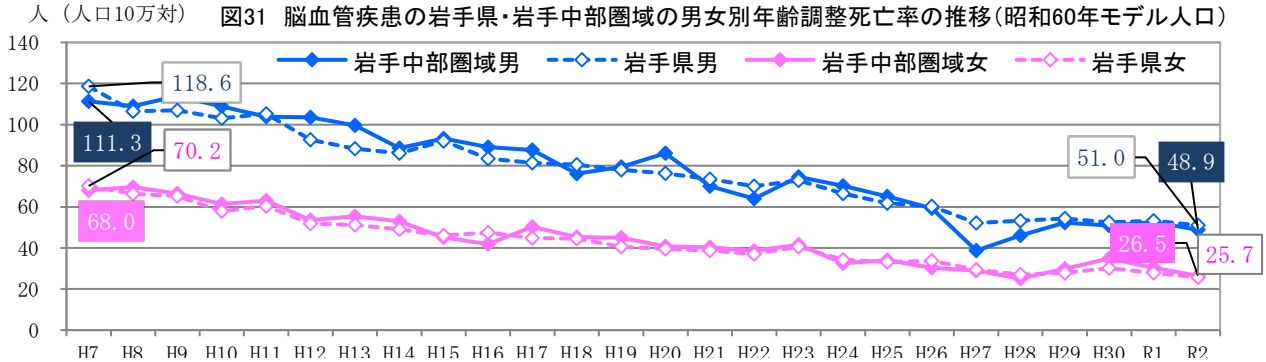
（図30）を見ると、岩手中部圏域は年ごとの変動はあるものの、男女ともに概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。

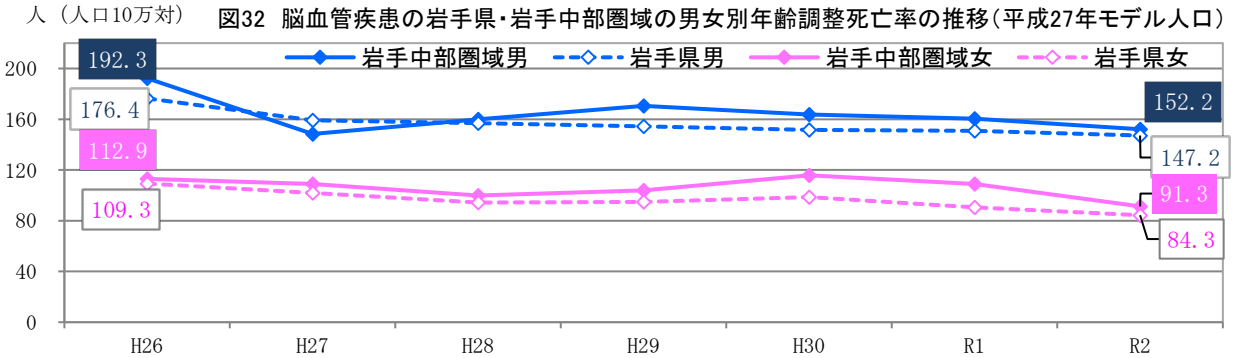




7　脳血管疾患の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

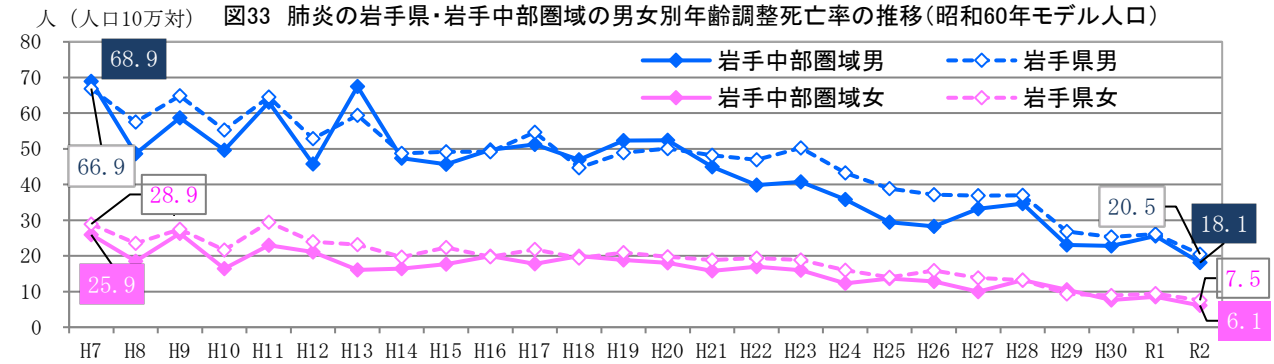
「脳血管疾患」について、岩手県全体・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図31）（図32）に示します。
（図31）を見ると、岩手中部圏域では、男性は平成7年の111.3から増減を繰り返しながらも低下傾向にあり、令和2年は48.9となっています。また、平成23年以降は岩手県全体より高い死亡率でしたが、平成26年以降は低く推移しています。女性も平成7年の68.0から低下傾向を示しつつ、令和2年は上昇し26.5となっています。
（図32）を見ると、岩手中部圏域は男女ともに概ね岩手県全体よりやや高く推移しています。

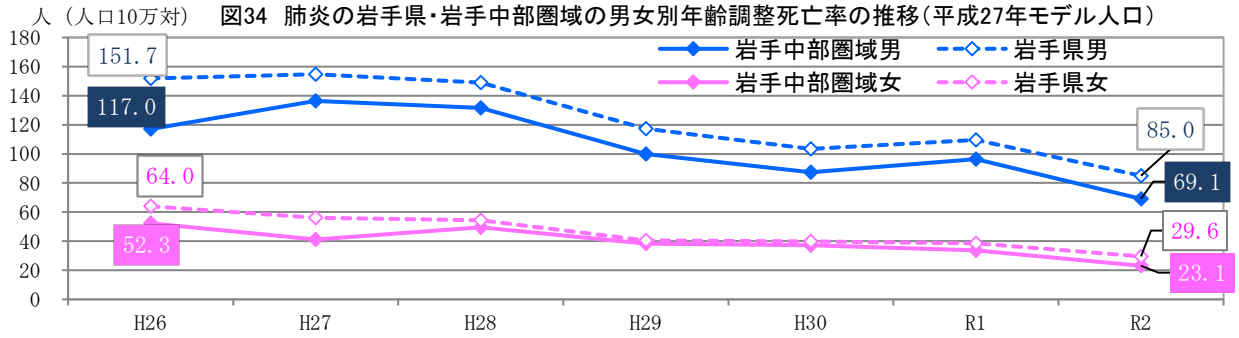




8　肺炎の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、岩手県全体・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図33）（図34）に示します。
（図33）を見ると、岩手中部圏域では、男性は平成7年から大きな幅で上昇と低下を繰り返していましたが、平成14年からは小さな幅となり、平成21年以降は低下傾向となっています。令和2年は18.1と岩手県全体より低く推移しています。女性は、長期的にみると緩やかな低下傾向となっています。令和2年は6.1と岩手県全体より低く推移しています。
（図34）を見ると、岩手中部圏域は男女ともに岩手県全体よりやや低く推移しています。





９　自殺の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、岩手県全体・岩手中部圏域男女別の年齢調整死亡率の推移を（図35）（図36）に示します。
（図35）を見ると、岩手中部圏域では、男性は平成11年、15年、16年に大きな山があり、平成20年以降概ね低下傾向にあり、令和２年は20.4と岩手県全体より低く推移しています。女性は、平成12年と平成22年に小さな山があり、令和２年は9.9と岩手県全体より低く推移しています。
（図36）を見ると、岩手中部圏域の男性は、岩手県全体より高く推移している年次が多いですが、令和２年は岩手県全体より低く推移しています。女性は、平成27年に大きく低下しましたが、概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。

図35　自殺の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（昭和60年モデル人口）

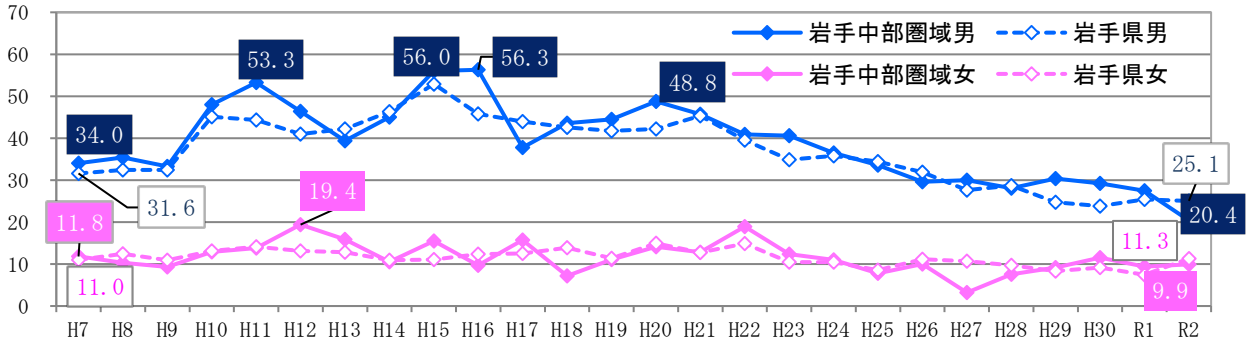
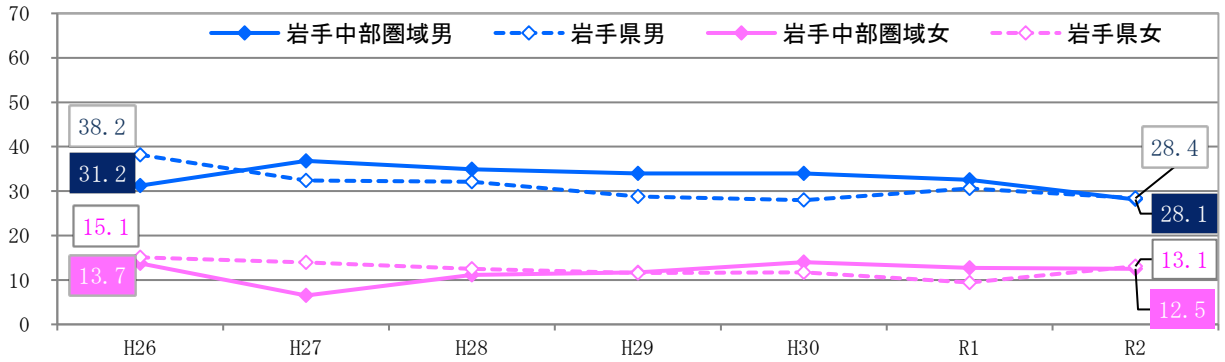


図36　自殺の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（平成27年モデル人口）



10　老衰の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、全体・岩手中部圏域男女別の年齢調整死亡率の推移を（図37）（図38）に示します。
（図37）を見ると、男女とも岩手県の値とは大きな差がなく経過してきましたが、この数年で男女とも岩手中部圏域の方が高値となっています。また、ほとんどの年で、男性より女性の方が高値となっています。令和２年は、男性が14.6、女性が21.4と岩手県全体より高く推移しています。
（図38）を見ると、岩手中部圏域は男女ともに概ね岩手県全体より高く推移しています。

図37　老衰の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（昭和60年モデル人口）

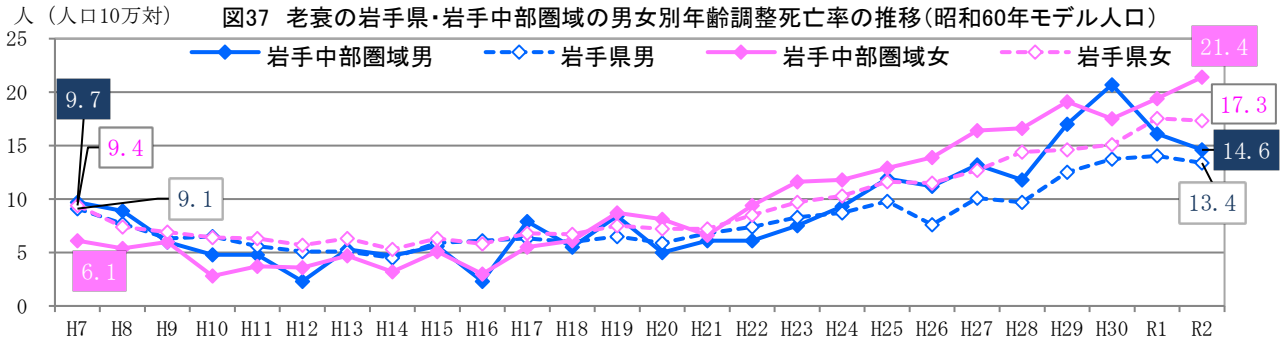
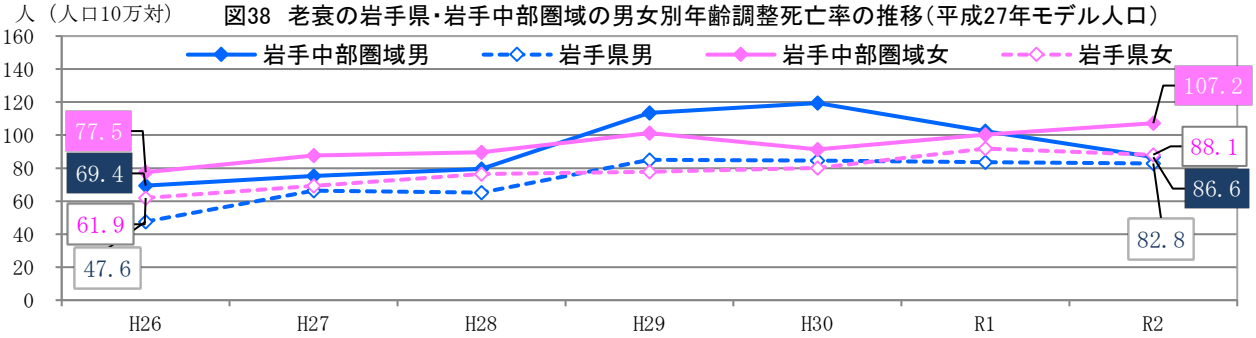



図38　老衰の岩手県・岩手中部圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（平成27年モデル人口）